



茶摘み体験をしました。（6年生）

4月26日（金）1,2限目を使って、6年生が「茶摘み体験」をしました。早朝からJA三重北職員の皆様が、学校の茶畑にかぶせてあった黒いシート（クレモナといいます）を外し、茶摘み体験の準備をしてくださいました。クレモナがかけてあった場所とそうでない場所とでは、茶葉の緑色の感じが全く違い、茶葉がすごく光って輝いているようでした。インターネットで調べてみると、黒いシートをかぶせることにより、葉っぱの緑が濃くなって、特有の渋みが少なくなり、味がまろやかになるのだそうです。茶摘みは4葉、5葉が伸びた頃に一芯二葉、または一芯三葉を摘むのが良いとされていて、子どもたちは新芽を見分け、慎重に茶摘みを進めていました。この学年の子どもたちは、お茶摘みをした経験のある子どもがいない学年のようで、今回の体験はとても新鮮だったようです。JA三重北職員の皆様が新芽の成長を注意深く見守り、摘み時を逆算して作業の準備を進めていただいたおかげで、無事に茶摘み体験を終えることができ、たくさんのお茶葉を摘むことができました。本当にありがとうございました。



中央教育審議会答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」によると、体験活動は、多くの人と関わりながら体験を積み重ねることにより、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養う効果があるといわれています。人間関係をうまく作れない、規範意識に欠けている、ささいなことでも感情を抑えられないなど、青少年が抱える課題解決への一つのアプローチ、課題未然防止のためにも体験活動は有効とされています。また、自然体験や生活体験といった体験が豊富な子どもやお手伝いを多くしている子ども、生活習慣が身についている子どもほど、自己肯定感や道徳観・正義感が高い傾向があるといわれています。

自然に満ちあふれた水沢の町で、地域、保護者の皆様、学校のなかまに囲まれ、人と人との関わりを通じて、多感な時期の子どもたちが穏やかに、心豊かに育っていかれることを願っています。

手摘みができず、残ったところのお茶の葉は、JA三重北職員の皆様が機械を使って後日刈り取っていただきました。学校ホームページにも、3,4年生がクレモナをかけている様子、6年生が茶摘み体験をしている様子をカラー写真で載せていますので、ぜひご覧ください。

春の遠足に出かけました。

5月2日（木）は、朝から晴れ渡り、全学年が「星の広場」へと春の遠足に出かけました。「春の自然に親しみながら、歩く楽しさを知るとともに体力の向上を図る」「クラスの友だちや縦割り班との交流を深める」の2つが今回の遠足についての大きな目的でした。



遠足でのルールを意識し、「もみじ谷」でのトイレ休憩をはさんで、片道約3kmの道のりを歩きました。「星の広場」では、上級生と下級生が追いかっこをして遊んだり、下級生が上級生にしがみついたり、微笑ましい光景があらこちらで広がっていました。また、お弁当を見せあったり、持ってきたおかしの話をしたり、楽しそうに会話している場面が見られました。縄跳びを跳んだり、ドッジボールをしたり、集団で楽しそうに活動している場面も見られました。

目的地の「星の広場」は、校区内でもあり、帰りは地区ごとに並び、途中解散組と学校解散組とにわかれて出発しました。朝早くからお弁当やお茶、服装の準備、お忙しい中時間を工面していただいたおやつの準備など、保護者の皆様には、さまざまなご協力をいただいたことと思います。本当にありがとうございました。遠足を通して、子どもたちの楽しそうな笑顔や姿があらこちらで見られたことが何よりの収穫でした。

茶業振興センターの所長さんからも、冷えたお茶をたくさんいただきました。子どもたちは「冷たくておいしい」「まろやかな味がする」「おかわりがほしい」と言って飲んでいました。あたたかい心遣いをありがとうございました。

※ペア学年活動、縦割り班活動を通して育てたいこと

上級生……リーダーシップや思いやりの心を育てる。

下級生……上級生に対するあこがれの気持ち、異年齢集団の一員であるという気持ちを育てる。

本校では、さまざまな活動の場面において、異年齢集団の活動を大切にしています。